

I 次の文章を読んで、後の問い（問一〜十五）に答えなさい。

他人が自分を尊重してくれない、理解してくれない、あるいはこれまで自分を尊重し理解してくれていた人を失う。それらにより、自分が求める他者との関係の質と量に対して、現実に得られていると感じている他者との関係の質と量とがAとき、人は孤独を感じる。

これら三種類の孤独すべてが経営の失敗によって生まれる。①  
はじめに「他人が自分を尊重してくれない」という種類の孤独に悩んでいる人の典型的な行動をみてみよう。

街を歩いていて、ふと、何か面白いことを思いつく。私の場合でいえば、よく「実際にお会いすると意外に大きいんですね」と言われるのだが、「映像や文章では人間の小ささが強調されてまして」と返答するという冗談を思いついたりする。

さつそく先ほどの自分の思い付きをどうしても誰かと話したくなる。

こんなとき孤独な人が次にとる行動は、ひたすらメールやダイレクトメッセージを友人または友達以上恋人未満の気になる人に送りまくることだ。だが返信はこない。これじゃ足りないかとばかりに追加でメッセージを送信しまくる。返信はこない。

だんだんと怒りと悲しみがこみあげてくる。負けるもんかと、今度はその友人に電話をかけまくる。いわゆる鬼電というやつだ。電話をかける鬼になったつもりで発信ボタンを連打することを鬼電という。誰も電話にでない。仕方がないので、しばらく顔を合わせていなかった父母兄弟姉妹子女に電話する。電話にでない。

私などは、友人・家族に電話がつながらなすぎて電話会社のインボウを疑うほどだ。

こうなったら、とばかりに、疎遠だった親戚にも電話をかける。ようやく電話がつながるが親戚はなんだかよそよそしい態度だ。そうして孤独感がますます募ってくる。すると先ほど電話に出なかった父母兄弟姉妹子女から折り返し電話がかかってくる。そこで親戚との電話は早々に切り上げて父母兄弟姉妹子女と話しだす。

ようやく孤独を癒やせる、とばかりに孤独な人は一方的にしゃべり散らす。どうでもいいことをしゃべる、しゃべる。電話の向こうでは「またか」とばかりにスマホをスピーカーモードにして音は最小にされている。固定電話であれば受話器をわきに置かれている。孤独な人は空気を相手に必死でしゃべっているわけだ。

そのうちに孤独な人は、電話の向こうの相手が自分の話をまともに聞いていないことを感づき「どういうつもりだ」と問いただす。説教を始める。しかし相手の平謝りに対してもなんだか誠意を感じない。怒りを爆発させ相手をなじる。

相手が「こっちだって忙しい」と逆上してくる。そうして喧嘩に発展する。みじめさに涙があふれ

てくる。

このような行動は、若年層から高齢層まで、学生から社会人まで、多くの「孤独な人」に共通する。自分がこうしたことをやってしまっている、周囲にこういう人がいる、こうした人に絡まれて困っている、などの心当たりがある人も多いだろう。【②】

自分以外にとってどうでもよいことを他者に連絡してしまう。しかも大量のメールや電話を何度も送り付けることで相手にとっての面倒を増やす。その結果として相手からすれば連絡を返すのが面倒になる。

だからこそ返信がない。返信がないからこちらはますます連絡する回数を増やし、相手が遠ざかっていくという悪循環におちいつている。

電話にしても、孤独感をまぎらわすために鬼電と長電話をすることでますます嫌われる。【③】自分との電話を価値あるものとして相手に認識してもらえない。ぞんざいな扱いを受ける。ぞんざいな扱いを感じ取って、ますます孤独感を強めるという悪循環におちいる。比喩として、あるいは戯曲として、客観的に孤独が発生する状況をながめてみれば、誰にとってもばかばかしい経営の失敗例として認識できることだろう。

**B**、この架空の状況において孤独の悪循環を断ち切るにはどうすればよかったのか。

まずは「メールや電話で誰かと連絡を取ることは**C**」ことを認識することだ。さらに、自分の孤独を癒やすために他者の労力や関心を一方的に奪うのではなく、孤独を感じずにすむ場を創造してしまう必要があるだろう。

たとえば何らかの専門知識を蓄積したうえで、誰の相談にも気軽に乗ることを公言し有言実行することで、定期的に他者と交流できるようにするという手もある。あるいは自分と同じく孤独な人が集まれる場を用意する、書物や芸術を通じて過去の偉人と対峙することで孤独を癒やす、ペットを飼う、自分自身と対話する時間を楽しむといった手もある。【④】

次に「他人が自分を理解してくれない」という種類の孤独をみしてみる。

自分に関心を払ってくれる人が自分の周囲に十分なだけ存在している、という恵まれた状況であっても孤独はやってくる。自分が周囲から本当には理解されていない、あるいは共感されていないという悩みを持つ場合などだ。

こうした孤独な人の典型的なパターンは次の通りである。

漠然と「他人はきつと自分のことを理解してくれないだろう」という思いがある。あるいは、意図的に「誰にも理解されない孤高の天才でありたい」という思いがあるのかもしれない。いずれにしても、自分が何を考えているのか、どんなことで悩んでいるのか、軽はずみに他人に自己開示するなんてとんでもない、と考えてしまっている。

とはいえ社会生活に他人はつきものだ。【⑤】

そこで、仕方がないから、図書館においてある現代思想系の雑誌で仕入れた単語を自分でもよくわかっていないような順番で並べてみて会話する。「自分がやりたいのは思考と行動の二元論からの脱構築なんだと書いていて（こうした人はなぜか「思っていて」という言葉が好きである）。ほら、行

動するまで結果って分からないじゃん？ 量子力学的な、さ。メルロー＝ポンティも似たこと言っている」といった感じだ（私が大学の文芸部に在籍していた時分によく使っていた手法である）。

この発話を要約すれば「D」というだけだが、それだと格好がつかない。

しかし、そのうちにそんな自分が嫌になってきて、どうしても誰かに自分の本当の考えや悩みを聞いてほしくなってくる。「本当は就職活動が不安だ」という悩みかもしれないし「美容整形したことが誰にもバレないくらい自然な美容整形をしたい（それなら変化がないわけで本当は意味もないのだが）」という奇妙な悩みかもしれない。

唐突におそろおそろ小出しでこうした話題について家族や恋人や友人と話す。だが、相手はその話の表面的な部分しか理解してくれないことがほとんどだ。

そもそも小出しの情報すぎて相手は何か何だかわからない。理解されなくて当たり前である。しかも、普段から意味がわからない話をしているため、相手には自分についての前提知識が何も共有されていないのだからなおさらだ。

そうして「やはり周囲は自分を理解できない（天才は孤独だ？）」とあきらめる。【6】

営利・非営利企業の経営者もまた似たような孤独感にさいなまれることがある。経営者は、ある意味では幸せなことに、自分のことを一定程度は尊重して関心を払ってくれる人たちに囲まれている。経営者仲間、取引先、従業員などだ。下手すると経営者の話が一番興味がないのは、本来は一番近い存在の**はずの家族**かもしれない。

さて孤独な経営者は次のような思考をしがちである。

まず自分はある分野の経営の専門家だという自負がある。だから、別の分野の経営者と交流しても得られるものなどないと決めつける。経営コンサルタント／経営学者なんでもってのほか、やつらは実業を何も知らないと批判する。

同じ業界どころか同じ組織で長年一緒に働く従業員に対しても、「だめだめ、あいつらは経営のつらさはわかっちゃいないんだ」と突き放す。かといって同分野の経営者は敵だからそもそも話にならない。

となれば経営についての相談は誰にもできなくなる。

これなら「やっぱりこの会社の経営は自分**にしか無理な仕事だ**」という自負心は満たせるが、常に一抹の不安が消えない。経営のすべてが**独断**になると自分が処理しなければならない問題の総量が増え、高負荷のもとで間違った意思決定をする確率も高まるからだ。どんなに優秀な経営者であろうとひとりりで「E」の知識を網羅することなどできない。

酒に酔いながら「経営者は孤独だ」とつぶやく人の出来上がりだ。白状すれば私も学生起業した当初は高慢と偏見のせいで誰にも悩みを相談できなかった。

しかし、自分の話を聞いてくれる人が周囲に存在しているながら、誰からも理解されず孤独になる人は、ここで挙げた例のように「F 行動」をとっているだけかもしれない。

【7】当たり前だが、そもそも自己開示をしなければ他者が自分のことを理解してくれるはずがない。自分の置かれた状況に関しての知識を共有しなければ、どんな人であろうと相談に乗るの**は不可能だ**。

他者を尊重し他者から学ぼうという姿勢を持たなければ、他者がこちらのことを知ろうと思ってくれ  
るはずがない。【⑧】

最後に「自分を尊重し理解してくれていた人を失う」ことで孤独になる場合だ。

自分に関心を払ってくれて理解もあつた家族・恋人・友人などと何らかの理由で離ればなれになっ  
てしまったような状況だ。理解者を失う原因としては進学・転勤・退職などによって自分が相手から  
遠ざかる場合、喧嘩・離別・死別などによって相手が自分から遠ざかる場合がある。

まず自分が元々の理解者から遠ざかる場合。通常こうした選択は自分がおこなったはずだ。進学・  
転勤・退職などは、心機一転、自分が成長する機会でもある。あらたな場所であらたな理解者を得る  
ことでさらなる機会もめぐってくる。こうした原因による孤独は必ずしも悪いとばかり決まっている  
わけではない。

そのため「環境が変わることで一時的に他者との関係が乏しくなる」ことを、事前に十分理解して  
おく必要があるだろう。孤独感是他者との関係についての【G】から生まれるため、あらかじめ期待  
を下げておくことで対処するわけだ。

そうしないと、たとえば、あらたな人間関係を期待して進学に際して田舎から都会に出てきたはず  
だったのに、一時的な孤独感に耐えられず頻繁に地元に戻って地元の友達とつるむようなことになる。  
これでは駅前留学と大して変わらない。こうした人はよく見かけるが、これではあらたな人間関係は  
築けず、いつまでたっても孤独感はフツシヨクフツシヨクされないうし、成長もしないということにもなりかねな  
い。

次に理解者が自分のもとから去っていくという場合。死別以外ではこの章のいくつかの挿話と類似  
した状況で理解者は去っていく。たとえば小さな自尊心を満たすために相手を責める、あるいは罵倒  
した結果として、相手から自分への尊敬の念が失われていく。自尊心も満たされず、他者も傷つけ、  
理解者も失う。

大声で「俺を尊敬しろ」と叫んでみても、国際大声大会の会場でもない限り誰も尊敬してはくれな  
い。落ち着いたレストランや雰囲気の良いカフェでときおり見かける大声怪物顧客が周囲からどう見  
えるか、一度、冷静になって考えてみる必要がある。

こうした悲劇を避けるには「自分にとっての目的は何なのか」「いまやろうとしていることは本当  
にその目的の役に立つのか」を問い直す必要があるだろう。

もちろん理解者と死別した場合にはこれでは不十分だ。人の死は取り消せない。

【H】理解者と死別した場合でもその人が遺したものを通じてその人と再会することはできる。た  
えばその人が遺した書き物を読むことで頭の中でその人と対話することもできるし、その人が遺し  
た人間関係を通じてその人の考え方の背景を知ることもあるだろう。

【⑨】

(岩尾俊兵『世界は経営でできている』講談社現代新書 2024年より)

ただし、問題作成の都合で一部改変したところがある。

(注1) フランスの哲学者。

問一 文中の空欄「A」に最も当てはまることばを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ、⑦を選びなさい。

1

- ① 比例する
- ② 反比例する
- ③ 相関関係がある
- ④ 同等である
- ⑤ 上回る
- ⑥ 下回る

問二 文中の傍線部ア「典型的な行動」に合致するものの組み合わせを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ、⑦を選びなさい。

2

- i 面白いことを思いついたときには、電話ではなく、まずは知人にメールやダイレクトメールを送り相手に知らせるといふ行動のこと
- ii メールやメッセージを送信した後、返信があるまでひたすらメールやメッセージを送り続ける行動のこと
- iii 知人や親戚に電話をしているいろいろなことを話す、相手が真剣な対応をしていないと感じると説教を始めるなどの行動のこと
- iv 自分の都合で一方的に連絡を入れ、それに対応しない相手に対して怒りをぶつけるなどの自分勝手な行動のこと
- v 父母兄弟姉妹子女が電話に応答した場合、相手のことを思いやることもなく長々と一方的に話し続ける行動のこと

- ① i、iv
- ② ii、v
- ③ i、iii、iv
- ④ ii、iv、v
- ⑤ i、iii、v
- ⑥ i、v

問三 文中の傍線部イ「インボウ」に相当する漢字を含むものを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ、⑦を選びなさい。

3

- ① ムボウな挑戦だ
- ② 外国とボウエキをする
- ③ アサネボウをした
- ④ タボウな日々を過ごす
- ⑤ エアコンをダンボウにする
- ⑥ 計画をボウガイした

問四 文中の空欄 **B** に最も当てはまることを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ、⑦を選びなさい。

- ① しかし
- ② 換言すれば
- ③ これによると
- ④ とにかく
- ⑤ それでは
- ⑥ いわば

問五 文中の空欄 **C** に最も当てはまることを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ、⑦を選びなさい。

- ① 社会人としての行動ではない
- ② 思いつきで計画性がない
- ③ 手段であって目的ではない
- ④ 本来に必要なかという
- ⑤ 他者との関係性を悪化させる
- ⑥ 長電話や鬼電につながる

問六 文中の空欄 **D** に最も当てはまることを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ、⑦を選びなさい。

- ① 時は金なり
- ② 光陰矢のごとし
- ③ 為せば成る
- ④ 言うは易し
- ⑤ 武士に二言はない
- ⑥ 馬の耳に念仏

問七 文中の傍線部ウ「似たような孤独感」の内容として最も合致するものを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。

- ① 自分は天才的なものが備わっており、凡人には理解されないことが天才の証であると理解しているが、そのために感じる孤独感
- ② いろいろな書物を読むなどした結果、少々理解が不十分でもわかったふりをして知識をひけらかすような話し方が相手の気に障って知人が離れていくための孤独感
- ③ 悩み事や何らかのアイデアなどを話すとき、相手に十分な関連する情報を提供していないために、相手が自分の期待するような反応を示すことがないことで感じる孤独感
- ④ 自分のことは誰もが知っているといるという前提から会話をしたが、結果としてだれも親身にならな答えてくれるようなことがないことで感じる孤独感
- ⑤ 自分の周りには自分のことを知っている友人や知人がいるにもかかわらず、そもそも相手の返答を期待していないために生じる孤独感
- ⑥ 先人たちの言葉を多用して会話するために、相手があきれてしまい会話を続ける気持ちにならなくなってしまうために話がかみ合わないことで生じる孤独感

7

6

5

4

問八 文中の傍線部「常に一抔の不安が消えない」の理由として最も合致するものを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。

8

- ① 孤独感がいつまで続くかわからず、自分の周辺には相談できる相手がないため心細くなることが起こっているため
- ② 経営者になると、なにかも自分で決めることができ、自分の思うような経営ができる反面、自分の周囲の人たちは何も知らないことから孤独感を感じるため
- ③ 経営者は、高慢と自分の偏見のせいで孤独になっていることを自覚していないことから、お酒を飲むなどの気分転換をしても不安を感じるため
- ④ 従業員や家族など経営者には、自分のことを尊重してくれる人々がいるにもかかわらず、経営することの大変さを分かってくれる人がいないため
- ⑤ 経営コンサルタントや経営学者の知見を活用した方がよい場合にも、彼らは現場を知らないことから実践的な助言が得られないとと思っているため
- ⑥ 経営についての相談相手がいない孤独のために、経営すべての責任を負うことになり、結果として誤った判断になる可能性を否定できないことを感じているため

問九 文中の空欄 E には「宇宙間に存在する数限りない一切のものと(広辞苑)」という意味のことばが入ります。最も当てはまることばを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ、⑦を選びなさい。

9

- ① 明鏡止水
- ② 温故知新
- ③ 唯我独尊
- ④ 森羅万象
- ⑤ 呉越同舟
- ⑥ 唯一無二

問十 文中の空欄 F に最も当てはまるものを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。

10

- ① 他者と疎遠にならない
- ② 孤高の天才をきどる
- ③ 鬼電と長電話という人に大量のメールを送る
- ④ 理解されないための
- ⑤ 奇妙な悩みを抱える

問十一 文中の空欄 G に最も当てはまるものを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。

11

- ① 距離感の思い違い
- ② 期待と現実の差
- ③ 親しさの度合い
- ④ 友好関係の強さ
- ⑤ 知識と体験の多さ
- ⑥ 寛容さの程度

問十二 文中の傍線部オ「フッシュヨク」に相当する漢字を含むものを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ、⑦を選びなさい。

- ① 汗をヌグう
- ② 花びらがイロづく
- ③ 絵画をカザる
- ④ 朝ご飯をタべる
- ⑤ 花をウえる
- ⑥ ボールにサワる

問十三 文中の空欄 H に最も当てはまるものを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ、⑦を選びなさい。

- ① ところで
- ② いわば
- ③ だから
- ④ そこで
- ⑤ ただし
- ⑥ そして

問十四 次の一文が入るべき箇所を、本文中の【①】～【⑨】のうちから一つ選びなさい。

【孤独を克服するには絆と共感と連帯を自ら創り出す必要がある。】

問十五 この文章の内容に合致しないものの組み合わせを次の①～⑧の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ⑨を選びなさい。

- i 鬼電をしたり長電話をしたりすることが、意思疎通の一番の方法であると考えている間は経営者になりえない
- ii 経営の失敗とは、孤独感から抜け出すことができない経営者に共通してみられる事象である
- iii 自尊心を満たすために他者を自分のもののように扱うことで、理解者がいつの間にか去っていくことがある
- iv 孤独が経営の失敗から生まれるとは、顧客のことを考えた行動をとることが重要であることを忘れた場合のことも含まれる
- v 死別という理解者との別れもあるが、いくつかの方法を選択することで必ずしも孤独になるとは言いきれない

- ① i、iv
- ② ii、v
- ③ iii、iv
- ④ i、iii、iv
- ⑤ ii、iii、iv
- ⑥ iii、iv、v
- ⑦ ii、iii、iv、v
- ⑧ i、v

Ⅱ 次の文章を読んで、後の問い（問一～十五）に答えなさい。設問の都合で本文の段落に①～⑬の番号を付してあります。

- ① 私はたえず何ごとかをなしている。しかし、私が何ごとかをなすとはどういうことなのか？
- ② 歩くという例を考えてみよう。私が歩く。そのとき私は「歩こう」という意志をもって、この歩行なる行為を自分で遂行しているように思える。
- ③ A、事はそう単純ではない。
- ④ 歩く動作は人体の全身にかかわっている。人体には二〇〇以上の骨、一〇〇以上の関節、約四〇〇の骨格筋がある。それらがきわめて繊細な連係プレーを行うことによってはじめて歩く動作が可能になるわけだが、私はそうした複雑な人体の機構を自分で動かそうと思って動かしているわけではない。
- ⑤ 実際、あまりに複雑な人体の機構を、意識という一つの司令塔からコントロールすることは不可能であり、身体の一部は意識からの指令を待たず、各部で自動的に連絡をとりあって複雑な連携をこなしていることが知られている。
- ⑥ 歩く動作が可能になったとしても、それだけで歩くという行為が可能になるわけではない。歩くためには歩くことを可能にする外的な条件があらかじめ整備されていないといけない。足の接する場所は水平に近く、ある程度の硬度をもち、適度に固定されていなければならない。急な斜面、グニャグニャしたところ、グラグラしたところは歩けない。
- ⑦ また、ゲンミツに考えれば、歩くときに足下でまったく同じ条件が繰り返されるということはありえないのであって、踏み出された一歩一歩が踏みしめる場所は一つ一つ違う。したがって、歩行する身体は、毎度毎度異なる外的条件にも対応しなければならぬ。
- ⑧ さて、こうして歩く動作と歩く行為が可能になったとして、では、それが私の思った通りに遂行されているのかというと、これもまた疑わしい。
- ⑨ 歩くといってもさまざま歩き方がある。私が自分で特定の歩き方を意識して選んだのかという点と必ずしもそうではない。私は生まれてこの方、特定の歩き方を習得してきたのであり、ある意味では、その仕方ですべて強いられている。
- ⑩ たとえば、明治初期に近代的な軍隊がつけられた際、それまで農民だった兵士たちは西洋式の行進がうまくできなかったことがよく知られている。彼らにとって西洋式の歩き方は自然ではなかった。そもそも彼らは自分たちがどのように歩いているのかなど、意識したこともなかっただろう。
- ⑪ 私は行為していても、自分で自分の身体をどう動かしているのか、明瞭に意識しているわけではない。したがって、どう動かすのかを、明瞭な意識をもって選んでいるわけでもない。
- ⑫ たとえば子どもは、駆けることはできてもジョギングができないことがある。「歩く」と「駆ける」の間にあるジョギングの動作は、ずいぶんと後になって習得されるものだ。しかしひとたびジョギングができるようになると、われわれはそれが習得されたものであることを忘れてしまう。歩くという行為についても同じことが言えよう。

- 13 さらに、「歩こう」という意志が行為の最初にあるかどうかも疑わしい。
- 14 現代の脳神経科学が解き明かしたところによれば、脳内で行為を行うための運動プログラムがつくられた後で、その行為を行おうとする意志が意識のなかに現れてくるのだという。
- 15 脳内では、意志という **B** な経験に先立ち、無意識のうちに運動プログラムが進行している。しかもそれだけではない。意志の現れが感じられた後、脳内ではこの運動プログラムに従うとしたら身体や世界はどう動くのかが「内部モデル」に基づいてシミュレートされるのだが、その結果としてわれわれは、実際にはまだ身体は動いていないにもかかわらず、意志に沿って自分の身体が動いたかのような感覚を得る。
- 16 熊谷晋一郎くまがやしんいちろうの表現を借りれば、「私たちは、目を覚まししているときにも内部モデルという夢の世界に住んでいる」。われわれは脳内でのシミュレーションに過ぎないものに、自分と世界のリアリティを感じながら行為しているということだ。
- 17 私が何ごとかをなすとき、私は意志をもって自分でその行為を遂行しているように感じる。また人が何ごとかをなすのを見ると、私はその人が意志をもって自分でその行為を遂行しているように感じる。しかし、「自分で」がいったい何を指しているのかを決定するのは容易ではないし、そこで想定されているような「意志」を行為のゲンセンエと考えるのも難しい。
- 18 われわれはしばしば行為を「**C**」と見なす。しかし、以上の短い検討だけでも、そのような見方が少しも妥当でないことが分かる。これだけ多くの条件によって規定されているのだとすれば、行為はむしろ、それら諸条件のもとでの諸関係の実現と見なされるべきだろう。
- 19 このことは心のなかで起こることを例にするとより分かりやすくなるかもしれない。たとえば、「想いに耽るふけ」といった事態はどうだろうか？
- 20 私が想いに耽るのだとすれば、想いに耽るのはたしかに私だ。だが、想いに耽るというプロセスがスタートするその最初に私の意志があるとは思えない。私は「想いに耽るぞ」と思っただけでそうするわけではない。何らかの条件が満たされることで、そのプロセスがスタートするのである。
- 21 また、想いに耽るとき、私は心のなかでさまざまな **D** が自動的に展開したり、過去の場面が回想として現れ出たりするのを感じるが、そのプロセスは私の思い通りにはならない。意志は想いに耽るプロセスを操作していない。
- 22 心のなかで起こることが直接に他者と関係する場合を考えてみると、事態はもつと分かりやすくなる。謝罪を求められた場合を考えてみよう。
- 23 私が何らかの過ちを犯し、相手を傷つけたり、周りに損害を及ぼしたりしたために、他者が謝罪を求める。その場合、私が「自分の過ちを反省して、相手に謝るぞ」と意志しただけではダメである。心のなかに「私が悪かった……」という気持ちが生れてこなければ、**E**。そしてそうした気持ちが現れるためには、心のなかで諸々の **D** をめぐり実さまさまな条件が満たされねばならないだろう。
- 24 逆の立場に立って考えてみればよい。相手に謝罪を求めたとき、その相手がどれだけ「私が悪かった」「すみません」「謝ります」「反省しています」と述べても、それだけで相手を許すことは

できない。謝罪する気持ちが相手の心のなかに現れていなければ、それを謝罪として受けいれることはできない。そうした気持ちの現れを感じたとき、私は自分のなかに「許そう」という気持ちの現れを感じる。

25 もちろん、相手の心を覗くことはできない。だから、相手が偽ったり、それに騙されたりといったことも当然考えられる。だが、それは問題ではない。重要なのは、謝罪が求められたとき、

F ということである。

26 たしかに私は「謝ります」と言う。しかし、実際には、私が謝るのではない。私のなかに、私の心のなかに、謝る気持ちが現れることこそが G なのである。

27 こうして考えてみると、「私が何ごとかをなす」という文は意外にも複雑なものに思えてくる。というのも、「私が何ごとかをなす」という仕方で指し示される事態や行為であっても、細かく検討してみると、私がそれを自分で意志をもって遂行しているとは言いきれないからである。

28 謝るとするのは、私の心のなかに謝罪の気持ちが現れ出ることであろうし、想いに耽るというのも、そのようなプロセスが私の頭のなかで進行していることであろう。歩くことさえ、「さまざまに必要な条件が満たされつつ）私のもとで歩行が実現されている」と表現されるべき行為であった。にもかかわらず、われわれはそうした事態や行為を、「私が何ごとかをなす」という仕方では表現する。というか、そう表現せざるをえない。

29 「私が何ごとかをなす」という文は、「能動」と形容される形式のもとにある。たったいまわれわれが確認したのは、能動の形式で表現される事態や行為が、実際には、能動性のカテゴリーに収まりきらないということである。

30 「私が歩く」という文が指し示しているのは、私が歩くというよりも、むしろ、私に H 歩行が実現されていると表現されるべき事態であった。つまり、能動の形式で表現される事態や行為であろうとも、それを能動の概念によって説明できるとは限らない。「私が謝罪する」ことが要求されたとしても、そこで実際に要求されているのは、私が謝罪することではない。私のなかに謝罪の気持ちが現れ出ることなのだ。

(國分功一郎『中動態の世界——意志と責任の考古学』医学書院 2017年より)

ただし、問題作成の都合で一部改変したところがある。

問一 文中の空欄 A に最も当てはまることばを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ、⑦を選びなさい。

16

- ① だから      ② そして      ③ それとも      ④ さて      ⑤ いわば      ⑥ つまり

問二 文中の傍線部ア「事はそう単純ではない」の内容に合致するものの組み合わせを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ、⑦を選びなさい。

17

- i 骨・関節・骨格筋をうまく連携させることが必要であるが、意識的に実施していない
- ii 歩行するとは、歩こうという意志をもって初めて可能である
- iii 意識して歩行に関することをコントロールすることは不可能である
- iv 行進するときや散歩するときの歩き方などすべてを意識して学んでいない
- v 歩行するには、身体の準備も必要であるが外部環境も影響する

- ① i、v
- ② ii、iii
- ③ i、iii、v
- ④ ii、iv、v
- ⑤ i、iii、v
- ⑥ i、v

問三 文中の傍線部イ「ゲンミツ」に相当する漢字を含むものを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ、⑦を選びなさい。

18

- ① 人口がへっている
- ② オゴソかな式典だ
- ③ ギターのゲンを張る
- ④ 死んだペットのマボロシ
- ⑤ 生命のキゲン
- ⑥ クロウト顔負けだ

問四 文中の傍線部ウ「これもまた疑わしい」の内容として最も合致するものを次の①～⑥の中から一つ選びなさい

19

- ① 歩く動作と歩く行為は、どのように違いがあるのかわからない
- ② 人が何か行動するということは、そこに意志が働いているということである
- ③ 意志をもって行為するとは、無意識で動くこととは異なる
- ④ 歩く動作も行為もできるようなことが意志をもって遂行されている
- ⑤ 兵士の歩き方を農民ができないのは、意志をもっているかどうかの違いである
- ⑥ 子どものころからの歩き方は、意識的に選択してきたものである

問五 文中の空欄 B に最も当てはまることばを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ、⑦を選びなさい。

20

- ① 客観的
- ② 可逆的
- ③ 能動的
- ④ 顕在的
- ⑤ 意図的
- ⑥ 主観的

問六 文中の傍線部「ゲンセン」に相当する漢字を含むものを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ、⑦を選びなさい。

21

- ① 草津オンセン
- ② センリユウは短歌ではない
- ③ 食器用のセンザイ
- ④ 大気オセン
- ⑤ 時代のヘンセン
- ⑥ センボウの眼差し

問七 文中の空欄〔C〕に最も当てはまることを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ、⑦を選びなさい。

22

- ① 能動的動作
- ② 身体プログラム
- ③ 無意識の運動
- ④ 内部モデル
- ⑤ 意志の表現
- ⑥ 脳内シミュレーション

問八 文中の空欄〔D〕には「かんがえ思うこと（広辞苑）」という意味のことが入ります。最も当てはまることを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ、⑦を選びなさい。

23

- ① 考慮
- ② 疑念
- ③ 考察
- ④ 仮想
- ⑤ 想念
- ⑥ 試案

問九 文中の傍線部「想いに耽るプロセスを操作していない」の内容に最も合致するものを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ、⑦を選びなさい。

24

- ① 想いに耽るということは、人によってさまざまな過程を経るものであるがゆえに、一概に同じプロセスということができない
- ② 想いに耽るためにはいろいろなことを考えるが、それは思い通りにはならず他者に管理されているようなものである
- ③ 想いに耽るといいうなかで、関連する事柄や体験を連想したとしてもそれは自らがコントロールしたものではない
- ④ プロセスの操作とはこの場合、何かを想起するに至る過程を設計することと考えられるため、一人の考えでは困難である
- ⑤ 自分自身の心のうちに分け入ったところで、思考の過程に影響が及ぶ可能性は非常に低いということができない
- ⑥ 想いに耽る過程とは、他者に伝えることができなものであるため、もともと操作でききるものではない

問十 文中の空欄 **E** に最も合致するものを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。

25

- ① 謝るための決意とならない
- ② 他者の要求に応えることはできない
- ③ 相手の気持ちはわからない
- ④ 謝罪することの意味を理解できない
- ⑤ 謝罪のプロセスの操作ができない
- ⑥ 謝ると意志したことが無駄になる

問十一 文中の空欄 **F** に最も合致するものを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。

26

- ① 誠意を見せることの大切さ
- ② 柔らかな態度と優しい謝り方
- ③ 偽りでもよいが謝罪の言葉
- ④ とりあえず相手をなだめる態度
- ⑤ 意志した通りの行動
- ⑥ 実際に求められているのは何か

問十二 文中の空欄 **G** に最も合致するものを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ、⑦を選びなさい。

27

- ① 良心的
- ② 能動的
- ③ 客観的
- ④ 本質的
- ⑤ 受動的
- ⑥ 主観的

問十三 文中の空欄 **H** に最も合致するものを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ、⑦を選びなさい。

28

- ① ついて
- ② 準備させて
- ③ 対して
- ④ おいて
- ⑤ 気づいて
- ⑥ 決意させて

問十四 本文は内容からいくつかのまとまりに分ける場合、3つめの内容の始まりの段落番号と見出しの組み合わせで最も合致するものを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。

29

- ① 歩行する身体と意志
- ⑩ 10 歩行する身体と意志
- ② 行為は習得されるのか備わっているのか
- ⑫ 12 行為は習得されるのか備わっているのか
- ③ そもそも意志が最初にあったのか
- ⑬ 13 そもそも意志が最初にあったのか
- ④ 内部シミュレーションをする脳
- ⑮ 15 内部シミュレーションをする脳
- ⑤ 謝るとはどういうことか
- ⑲ 19 謝るとはどういうことか
- ⑥ 能動態だが能動ではない行為
- ⑳ 27 能動態だが能動ではない行為

問十五 この文章の内容に合致するものの組み合わせを次の①～⑧の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ⑨を選びなさい。

30

- i 飲むという行為は、意識して水分を口に運び飲み込むという一連の動作であることから、筆者が述べている歩行が実現されているということとは異なる
- ii 褒めるときというのは、褒めたいという気持ちが現れずとも実現可能であり、また褒められる対象者との関係性も問題にならない
- iii 「能動」といわれる事態や行為は、必ずしも「能動」ということであるとは言えない場合があり、「受動」というべきである
- iv 身体機能については、科学の進歩により以前はわからなかったことが解明されてきたことで、「能動」ではないことがわかった

- |   |         |   |          |   |           |   |        |
|---|---------|---|----------|---|-----------|---|--------|
| ① | i、ii    | ② | i、iv     | ③ | ii、iii    | ④ | iii、iv |
| ⑤ | i、ii、iv | ⑥ | i、iii、iv | ⑦ | ii、iii、iv | ⑧ | i、iv   |